あしぎんマーケットニュース

2026年10月29日

米10月FOMC、政策金利据え置きを決定

＜結果概要＞

・FRB（米連邦準備制度理事会）は、10月FOMC（米連邦公開市場委員会）において、政策金利を3.75%～4.00%に据え置くことを決定した（賛成10、反対2）。今回の決定に関して、クック理事とクリーブランド連銀ハマック総裁の2名は0.25%の利上げを主張し、反対票を投じた。
・公表された声明文では、景気は「強いペースで拡大」とし、9月FOMCの「堅調なペースで拡大」から一段階引き上げられたほか、雇用については「失業率はほぼ変わっていない」との見方が維持された。インフレについては「依然として高い水準」としつつも、「さらに情報を蓄積することで、インフレ率を目標の2%に速やかに戻す上で適切となる政策スタンスを判断することが可能になる」との文言が追加され、今後のデータを見極める姿勢が示された。

	今回結果	市場予想	前回結果
政策金利（%）	3.75-4.00	3.75-4.00	3.75-4.00

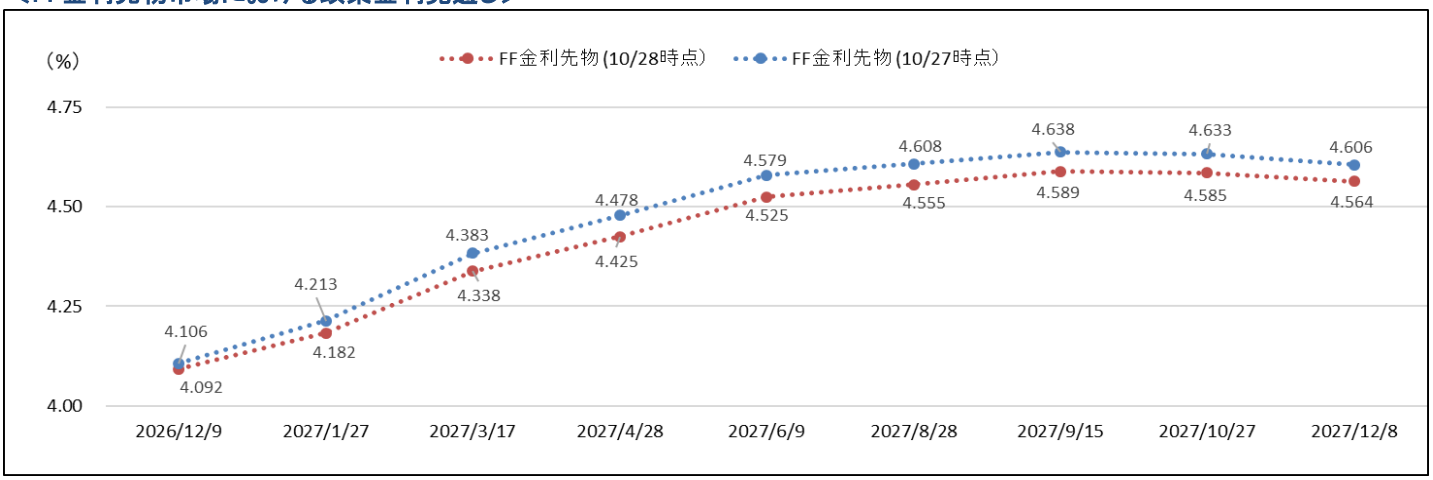
＜ウォーシュ議長会見要旨＞

・ウォーシュ議長は、現在の金融環境について、「9月のFOMC以降一部の企業や家計では引き締まりつつある」とし、9月の利上げ実施による効果に対して前向きな見方を示したものの、「全体的には十分に引き締まった状態と断定することはできない」と述べた。
・インフレについては、「依然として高すぎる」とし、エネルギー価格の上昇が経済全体に波及することを防ぎ、物価目標2%にインフレ率を安定化させることを最重要視していることを改めて強調した。
・今後のFOMCの回数については、会合自体は年8回と従来の回数を維持しつつも、27年は内1回を、28年については内2回を、金融政策戦略の議論に専念する会合にするとし、政策声明の公表は行わない方針を示した。

＜今回のポイントと相場動向＞

・政策金利は据え置かれたものの、声明文では景気判断が上方修正されたほか、ウォーシュ議長は会見で、インフレ率は依然として高く、物価目標2%の達成を重視していることを改めて強調した。
・一方で、9月FOMC時点では、ウォーシュ議長は金融環境は引き締まっていないと述べていたが、今会合では引き締まりつつあるとの認識を示したことで利上げに対する積極的な姿勢はやや緩和したと思われる。
・今回の結果を受けて、FF金利先物による2026年末の政策金利見通しは4.092%、2027年末の見通しは4.564%とやや低下した。政策金利の見通しの影響を受ける米2年国債利回りは、前日比▲0.04%の4.698%へと低下し、ドル／円相場は157円台後半で上値重く推移した。米国株はFOMCを無難に通過したことなどから主要3指数は上昇して引けた。

＜FF金利先物市場における政策金利見通し＞



＜市場動向＞

	10月28日	10月27日	前日比
ドル／円相場（円）	157.84	157.95	▲ 0.11
ダウ平均株価(ドル)	52,475.10	52,377.57	+97.53
S&P500指数（ポイント）	7,743.98	7,722.60	+21.38
NASDAQ総合指数（ポイント）	26,549.85	26,477.81	+72.04
米10年国債利回り（%）	5.018	4.997	+0.02
米2年国債利回り（%）	4.698	4.737	▲ 0.04

※FF（フェデラル・ファンド）金利とは

・FF金利とは米国の銀行間市場で資金貸借をする際に適用される金利を指し、日本における無担保コール翌日物金利に相当する。FF金利は米国において政策金利として用いられる。
・FF金利先物とはFF金利を原資産として将来のFF金利を予約する取引であり、投資家の予想が集約されるためFF金利先物の水準を見ることで将来のFF金利の予測が観測可能である。

※本資料は情報提供を目的として作成した参考資料であり、投資勧誘を目的としたものではありません。本資料の内容は発行日現在のものであり、将来予告なく変更されることもあります。本資料は信頼できると考えられるデータに基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。本資料は証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではなく、将来の市場環境等を保証するものではありません。

足利銀行